

## 肥満と機能性食品

肥満を伴う2型糖尿病に対しては、大型の新薬が次々と上市され治療内容が大きな変革を遂げている。特に体重減少効果の大きな薬剤としてセマグルチドに加え、2023年にはGIP/GLP-1受容体作動薬としてチルゼパチドの発売が予定されている。これらの薬剤は優れたHbA1c改善効果と共に既存の薬剤を超える体重減少作用を持つことが多くの大規模臨床試験によって証明されている。

しかしながら、肥満や2型糖尿病の治療はいかに薬物療法が進歩しても食事療法が重要である。体重を減少させ、糖代謝を改善させるための食事療法は現在、一層大きな注目を浴びている。個別化は従来に増して重要となっており、患者背景を考慮した指導が欠かせない。

制限するだけの食事療法ではなく、食べる（摂取する）ことで糖尿病や肥満の治療につながるのであれば、最も理想的である。この目的を達成するためには、食事療法のあり方を理論的かつ科学的に知り、治療標的を理解し、機能性食品の効能について最新の知見を学ぶことが必要である。これらの観点から、食事療法の個別化の実際（的場先生）、そして肥満の病態・治療標的（柳内先生）、機能性食品による肥満治療の可能性と研究の最前線（友寄先生、多賀先生、渡邊先生）をテーマとしてエキスパートの先生方にご執筆を依頼し、本特集を組んだ。

責任著者の先生方および各施設の関係の共著者の方々のご尽力によって、珠玉の原稿ばかりとなったことを心より感謝申し上げます。本特集が会員諸氏の研究の一助になることを願っている。

川浪大治  
(福岡大学医学部内分泌・糖尿病内科学)